海外新報

●裁判上ノ目的ニ向テ人體精液斑痕ノ檢查ニ就テ

(D. m. W. 1905. N. 25.)

Wederhake. 述

久保信之譯

精液ノ存在ニ向テ疑ハシキ癍痕ノ檢查カ法醫學的見解ニ於テ重大ナル意義ヲ有スルコトハ人ノ知ル所ナリ、フロレンス氏反應ハ正確ナラス、其陽性成績ハ他ノ有機性物質モ亦呈スルカ故ニ證據タルヲ得ス、唯タ試驗ノ陰性ナルトキハ恐ラク精液ノ存在セサルモノナルヲ示スニ過キス、然レトモ亦腐敗カ反應ヲ消滅スルコトモ知ラサル可カラス、夫レ故ニ精液ノ判斷ニ向テ誤リ無キ證據ハ精蟲ノ證明有ルノミ、然シナカラコハ一方其數ノ甚タ少キトキ又他ノ一面腐敗其他ニ由リテ彼ノ形狀ヲ變化シタルトキニハ屢々困難ナリ、茲ニ於テ唯タ顯微鏡的檢查ニ成績ヲ俟ツノ外無シ、然シナカラ茲ニ亦一ノ困難有リ、ソハ此小成分カ僅微ノ數ナルニ之ヲ發見シ且鑑別スルコト之ナリ殊ニ檢索者カ日々此種ノ檢查ニ熟練セサルトキハ尙更ナリ。

余ハ次ニ單純ナル染色法ヲ推薦スヘシ、ソハ余カ検査ニ於テ確實ニセラレ且精蟲ノ發見甚タ容易ニセラレタルモノナリ。

吾人ハ次ノ方法ヲ用ユ、即チ疑精液斑ヲ井水或ハ生理的食塩水ニ溶解シ、其溶液ハ遠心裝置ニ依リ又ハ底尖硝子器ニ於テ沈澱セラル、然ル後其沈澱物ノ上部ニ存在スル液體ヲ一立方仙米マテ灌棄シ而シテ之ニ一滴ノ沃度丁幾ヲ注加シ能ク振盪ス、之ニ Crocein-Scharlach 溶液ノ一立方仙米ヲ注加シ尙ホ一回振盪ス、今ヤ水ヲ以テ遠心機管ヲ充滿シ且ツ沈澱シ而シテ「ビペット」ニ依リテ其沈澱物ヲ物體板上ニ取り蓋硝子ヲ置ク、此ニ於テ標本ハ検査ニ供セラル、若シ其標本ヲ保存セムト欲セハ沈澱物ニ一滴ノ偲利設林又ハフアルラント氏液ノ一滴ヲ加ヘタル後被板ヲ蓋フ可シ。

Crocein-Scharlach 液ハ次ノ方法ヲ以テ造ラル、即チ Crocein-Scharlach 7 B (Kalle & Co. in Biebrich) ヲ七〇%ノ酒精ニ溶解シ色素ノ一部カ溶解セスシテ殘留スルニ至ルヲ度トス、此濃厚液ハ濾過セラル。
精蟲ノ頭ハ強ク赤染ス、而シテ之カ爲メ容易ク發見シ得ヘシ。